留学報告書

令和 ~~平成~~ 5年12月28日

学部 法文学部　学科・課程 社会文化学科
氏名 新田 欧介
帰省先住所 山口県防府市本橋町3-43
電話番号 080-2929-7241
Email DbirItmt@outlook.jp

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1．留学先大学・学部　国名 ドイツ連邦共和国
大学名 トリーア大学

現地到着日（2022年 9月26日）　授業開始日（2022年 10月 4日）

現地出発日（2023年 8月 1日）　授業終了日（2023年 7月20日）

2．日本を出発するまでの主な手続き及び準備

・パスポートの申請
・島根大学とトリーア大学への必要書類の提出
・航空券の購入
・ビザ申請に必要な書類の準備
・保険会社（AOK）とのやり取り

3．自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類，乗り換え地，所要時間）

9/25 実家 → 成田国際空港（1泊） 14時間 → フランクフルト空港（1泊）
9/27 フランクフルト中央駅 2時間 → コブレンツ中央駅 2時間 → トリーア中央駅
フランクフルトからコブレンツまではICE、コブレンツからトリーアまではRBという2種類の列車を使った。日本学の学生がトリーア中央駅まで迎えに来てくれたので、バスに乗らず自動車で大学近くの寮まで連れて行ってもらえた。

4．留学先大学での各種手続きの仕方

トリーアでの生活に必要となるものは6月頃から送られてくるメールに従って揃えれば問題ない。パスポートの写しや日本の住所、寮の初期費用の送金などが必要になる。また、保険会社に関しては、何度もやり取りをしないといけないので早め早めに動くのが大事。私が選んだAOKという保険会社は人によって扱いが違い、大変だった。

5．留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

オリエンテーションではビザや銀行口座の開設、住民登録などについてドイツ語と英語の2言語で説明される。提出を要求されたときに出せなかったら、日を改めて担当の人の所まで出しに行く。

プレースメントテストはなく、Goetheなどの語学力証明書や自己申告したレベルでクラスが決まり、授業のレベルが自分に合わないと感じたら一度だけクラスの変更が可能だった。

6．授業の受け方，ペーパー及び試験の傾向等について

初級コースであるA2レベルでも基本的に授業ではドイツ語しか用いられないので誰でも慣れないうちは大変だと思う。ただ、レベルが高ければ高いほど、週2回のレギュラークラス以外の授業も取れるのでできるだけ日本にいる間に語学力は上げておくのがよい。授業内容はクラスによって様々だが、予習・復習をきちんとすれば単位を落とすことはない。

7．留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの，後輩に勧めたいもの

・ドイツ語科目：Sprechkompetenz（A2, B1）は会話やプレゼンで使う表現を楽しく学ぶことができる。Schreibkompetenz（B1）もフォーマルなメールの書き方や場合に応じた様々な書き物のルールが学べ、実用的だった。

・専門科目：Japanische Geschichte。Japanologie（日本学科）が開講しており、内容も中・高レベルの日本史で易しいので試験も受けやすい。

8．留学先大学の住居の種類等について，後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

トリーアに住む留学生は基本的に寮に住むことになると思うので、大学の指示に従って申し込みをするのが一般的だと思う。寮の種類は大学に一番近いTarfost，バス停が目の前にあるKleeburger Weg，スーパーのすぐ近くに位置するPetrisbergの3つあり、私はKleeburger Weg IIに住んでいた。部屋は基本的に1人部屋で、昔ながらのヒーターと備え付けの家具がある。網戸がないと虫や鳥が遊びに来てしまうので、早い段階で近くのDMや市街で買って取り付けるのがオススメ。

9．寮・アパート生活での注意，生活の様子（行事など），困ったこと，ルームメイトとの付き合い方，（いつから入れるのか，寮の開閉，寮が閉鎖中の滞在場所等）

寮の鍵はオートロックで、平日ならHausmeister（寮の管理人さん）に開けてもらえるが、休日は鍵を部屋に置き忘れると60ユーロ払って業者を呼ばないと部屋に入れなくなってしまうので注意が必要。また、退去日についてはメールで事前にHausmeisterに連絡し、平日の15時くらいまでに部屋の清掃チェックを受けて、鍵を返さなければならない。

10．留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について
（どのような口座を利用したか，現金とかカードの利用は，自宅からの送金はどうしたか等）

私の場合はゆうちょ銀行の預金をVISAとマスターの2種類のカードを使って引き出したり、現地で開いたN26（ネット銀行）に送金してもらったお金を使っていた。大抵の店ではカード1枚あれば事足りるので無理に現金を使う必要はないが、自分は絵柄の違う2ユーロ硬貨を集めていたので度々現金を使っていた。

11．キャンパス案内（どんなとき，どこへ行けばよいか等）

学校の手続きについてはInternational Office，成績については授業の担当（Sprach ZentrumやJapanologie，Geschichte）にメールを送って、証明書をもらう。寮や住んでいる部屋で問題があったときはHausmeisterにメールを送るか、「Online Trouble Ticket」というサイトで故障（窓が開かない、電球が切れたなど）を報告すれば解決してもらえる。

12. 現地案内（買物，銀行，レストラン，理髪店，美容院等の様子）

普段の買い物は大学から近いLidlやWasgawというスーパーを使った。毎週水曜日にローストチキンの屋台が来るので買い物ついでによく買っていた。レストランは中心街にあるFrüh bis Spät、Kartofelkiste、Chopsticksなどが美味しい。また毎日中央広場で地元のワインが飲めるのでお酒が好きなら行ってみてほしい。アジアンスーパーもあるが、日本のものは少ないので、どうしてもほしい物があるときは観光やサッカー観戦のついでにデュッセルドルフまで行くとよいと思う。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

Japanologieの飲み会で飲み過ぎてしまい、2日酔いで翌日の授業に参加できなかった。ドイツ人を含め他の友人はお酒を飲むペースが早く、全然酔わないが、自分もつられて沢山飲んでしまったのがよくなかった。また、現地の電車は遅延したり、なくなったりすることが頻繁にあるので、予約したチケットが無駄になることもある。そのため余裕をもった旅程を立てることが肝要である。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか，保険等はどのようにしたか）

私は冬の間に風邪（コロナ?）になり、薬を早期に使い切ってしまったので念のため多めに持っていくのがよいと思う。もし病気で治療が必要となったらJapanologieの友人と一緒に病院に行くか、デュッセルドルフにいる日本人医師のもとを訪ねるのがよいと思う。

15. お世話になった方々

家族、法文学部 言語文化学科 ドイツ言語文化研究室 山崎泰孝 准教授
法文学部 社会文化学科 西洋史研究室 渋谷聡 教授
外国語教育センター Schluz Roland 講師、国際交流課の方々
教師教育研究センター 山根伸子先生、Japanologieの学生
トリーア大学の留学生担当の方々、トリーア大学附属カント研究所 秋元康隆講師

16. 留学先国内旅行について（場所，手段，費用，旅行社等）

国内はもちろん、DB（Deutsche Bahn）や飛行機を使って容易に国外旅行もできる。トリーアから1時間で行けるルクセンブルク空港からロンドンやミラノ、マドリードなどに行けるので意外と利便性がよい。ただ飛行機は基本的に高いので、節約したい場合は Flix Bus を使って長距離移動するのもよいと思う。ちなみにトリーアからは格安でベルリンへの夜行バスが出ている。

17. 気候と服装について

基本的に日本よりも冷涼な気候なので渡航するのが秋であってもコートやヒートテックなどを4月くらいまでは手放すことができない。冬は0℃を下回ることがなくても、雨が降ると本当に寒いので注意が必要。夏は日本に比べてカラッとしており、日差しが強い。それに加え、太陽が沈むのが10時前後になる。それ以降は寒いので薄手の羽織り物を着るのが無難。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品，衣服，食品，薬，運転免許証等）

大学の近くには薬局があるが、正直ドイツ語で説明文を読むのも大変だと思うので日本から自分に必要な薬を持っていくのがよいと思う。また、衣服に関しては、帰るときに捨ててもよいと思えるものを持っていくのがよいと思う。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

国内旅行の予定を立てるときによく用いたのは『地球の歩き方 ドイツ』で、有用性が最も高かった。また大学の授業で習った内容を日本語で適宜確認するために白水社の『みんなのドイツ語』（2021）を度々使っていた。

20. ホームステイの依頼方法

自分は行わなかったが、トリーアに来る前にホームステイしていた友人はいたので、日本にいる間に調べて申し込めば十分可能だと思う。

21. 留学費用について

1）旅費　（往）27万円，（復）33万円
2）準備費用　　円
3）大学へ納入する費用　　円
　授業料（年間合計）　54万円
　保険等その他の費用　18万円

4）住居費（光熱費等含む）　58万円
5）衣服代，その他雑費　15万円
6）帰国時の土産代，郵送料等　15万円
7）留学先国内旅行費用　60万円
8）上記を含めその他すべてを含めた合計金額　300万円
　現地通貨 1.9万€ 日本円換算（レート） 300万円

22. 帰国時の荷物の作り方，送り方等

日本に荷物を送ったのはトリーアを出る1日前で、日本と同様に段ボール（日本学の友人からもらった）に詰めて送った。私は冬服と大学で使っていた書類、博物館のパンフレット、書籍を2箱に分けて送った。私はDHL（ドイツ郵便）を使って送ったが、基本的に料金が高いのでいらないものは極力捨てて、送るものを厳選したほうがよいと思う。

23. 留学して得たこと（全般についての感想文）

私が当初持っていた留学の目的は、専攻している西洋史のドイツ語文献を読む力を少しでもつけること、強い憧れや問題意識を持っていたウィーンやハーメルン、アウシュヴィッツなどを訪ねること、また1年間外国に住んだという経験を得て、その後の進路選択の指針とすることであった。それらはある程度達成できたと思うが、それ以上に留学前に想定していなかった出会いや自身の性格やこれからの生き方、自分とは違う境遇、文化、言語の人々について深く考えることが多かった1年だったと思う。

とりわけ自分の中で変化したと思うのは、自分の置かれている状況に対する認識である。それを感じるきっかけとなったのは、トリーアで暮らすウクライナの人々との交流だった。彼らの多くは家族をウクライナに残したままドイツへ避難してきており、環境が全く変わった中でも自分自身の身を立てていかなければならない姿には多くのことを考えさせられた。私自身の恵まれた環境に対する感謝の念はより一層強くなり、平和な日常が一変することの辛さを彼らとの交流から実感を持って理解できた。

また、ドイツで暮らして気づいたのは、人の生き方や考え方は本当に様々であり、周りもそれを主張することを拒まない雰囲気がしっかりと存在することである。彼らの多くが大切にしているのは自分という軸を持ったうえで自らがどう感じ、どう生きていきたいかであり、彼らとの交流の中で自分が大切にしている価値観をもう一度見直したうえで、自分自身を強く持つことや「多様性」という言葉が持つ寛容さと責任なども学ぶことができた。それに加えて、「日本人」という

アイデンティティに特別な思いを持つ自分の存在もこの留学期間にしっかり認識することができたと思う。

最後になるが、今回の留学を通して私は本当にたくさんの方にお世話になった。まず説明会のときからドイツ留学やその準備をするうえで丁寧に必要なことを教えてくださり、手厚くサポートしてくださった国際交流課の職員の方々に感謝を申し上げたい。そして私が他学科の学生でありながらも、貴重なお時間をいただいて2年生の頃から個人的に私のドイツ語学習の面倒を見ていただいたどころか、トリーア大学や現地の保険会社とのやり取りの相談に渡航直前まで親切に対応してくださった山崎泰孝先生には頭が上がらない。また、担当教員でドイツでの豊富な経験をもとに留学中もメールを通じて細やかなアドバイスを度々賜った渋谷聡先生、留学後の教育実習に影響が出ないように対応していただいた山根伸子先生など、島大に携わる多くの方々にお世話になった。トリーアでできた友人たちにも深く感謝している。皆のおかげで自分の視野が格段に広がり、より多くのことに目が向くようになったと思う。そして何より留学に行く私を快く送り出してくれた家族、いつも優しく支えてくれた日本にいる大切な人たちにも心より感謝を申し上げたい。